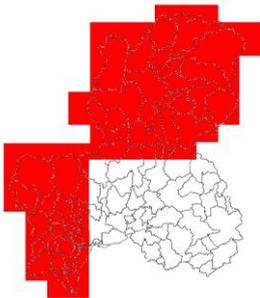


イチョウシダ	<i>Asplenium ruta-muraria</i> L.	絶滅危惧 I 類
(環境省: 準絶滅危惧)		チャセンシダ科
選定理由	もともと生育地が少ないうえ、生育環境が石灰岩地と限られるため、環境変化による種の存続への圧迫に絶えずさらされている。愛好家による園芸採取も多い。	写真(村長昭義) 
形態の特徴	常緑性のシダ。根茎は短く這う。葉身は円形、披針形から倒卵形、葉の質はやや硬い。2回羽状分岐だが小さい葉は単羽状複生。	
生態的特徴	山林中の石灰岩上に生育する。	
分布状況	北海道から九州に分布する。岐阜県では県南西部と県北西部に分布するが生育地はきわめて少ない。	
減少要因	山林開発、治山工事、岩場の自然崩落で生育環境が失われる危険性が高い。愛好家による採集圧も考えられる。	
保全対策	山林開発、治山工事、道路建設等による環境変化の防止。	
特記事項		
参考文献		
		※生育地保全のため、広範囲の分布図を表示しています。

文責: 村瀬正成